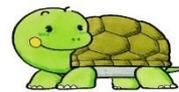


## 校報かめのこ

福生六小ホームページ <http://fussa-6e.hs.plala.or.jp/>

か	考える子
め	めげない子
の	伸びる子
こ	心豊かな子



## お願い

福生市立福生第六小学校  
統括校長 榎並 隆博

少し前の話になりますが、帰宅途中のことです。最寄り駅から自宅までの道のりに、自動車はもちろん人通りも少ない狭い道があり、いつものようにその道を歩いていました。前方に犬の散歩をしている小学校中学年くらいの子どもが2人見えました。ほとんど自動車も通らない道ですので、2人とも、道のほぼ中央で犬が自由に動く様子を楽しそうに見ています。その2人の横を通り過ぎようとしたとき、2人がマスクをしていないことに気付きました。人通りの少ない場所ですから、何も問題ありません。ただ、そのマスクをしていない2人の顔を見ると、よく似ています。「もしかすると双子なのかな？」と思わず視線を止めてしまった私の視線は、意図せず2人の視線と合ってしまいました。その瞬間2人は、少し笑顔を浮かべながら、声をそろえて「こんにちは！」と言いました。思わず私も「こんにちは。」と応えました。一瞬戸惑い、知り合いかなと考え、全く思い当たらないことを確認すると、何だかとても得したような気分になりました。「癒やされる」と表現するべきでしょうか？この事があまりにもうれしかったので、その夜家族にこの出来事を伝えました。何のオチも無い、こんなことがあったというだけの話ですが、話さずにはいられなかったのです。

以前、「挨拶の力」は素晴らしいものがあるということを書きましたが、改めてそのことを感じた瞬間でした。しかし、このエピソードの肝は「挨拶」ではありません。私が出会った2人がマスクをしていなかったことが肝です。もしマスクをしていたら「もしかすると双子なのかな？」とは思わず、視線を合わせることもしないまま通り過ぎたかもしれません。

マスク着用に関する国の方針は変わりましたが、マスクを付けた日常が長く続きました。そのため、とにかく子どもの顔を覚えるのに苦労しています。やっと何となく覚えてきても、給食中にマスクを外している顔を見ると、また誰だか分からなくなります。毎日接している子どもたちさえそんな感じですから、大変申し訳ないのですが、保護者の皆さんの顔はもっと覚えられません。この4月に初めてお子さんを六小に入学させた保護者の皆さんにいたっては尚更です。もしかすると街中でお目にかかっても、私から挨拶できずにすれ違ってしまっているのではないのでしょうか？これは私にとってはとてもストレスなのですが、何しろ覚えていないので自分から挨拶できません。相手かまわず挨拶すればいいのかもしれませんが、そこまでの勇氣もありません。街中で挨拶していいのか悪いのか、おどおどしながら歩いている校長を見かけたら、不躰ではありますが、そちらから挨拶をいただくと助かります。

「目は口ほどにものを言う」と言いますが、教師は目だけではなく、顔の表情全体を使って授業をつくるのがよくあります。マスクをしながらの授業は、実は大事なテクニックの一つを奪われていました。同様に子どもたちの表情の変化から、発問を変えたり支援策を変更したりすることもあります。マスクをした子どもたちの表情を読み取るのは、決して簡単ではありませんでした。4月からの新たな指針による学校生活により、コロナ禍以前のように、笑顔あふれ、挨拶がとびかう学校に早く戻していきたいと考えています。